

## 平成 27 年度 第 7 回南伊豆町学校統合審議会議事録

- 1 開催日時：平成 27 年 12 月 17 日（木） 19：00～20：10
- 2 開催場所：役場 3 階 議場
- 3 出席者：出席委員 13 名 欠席委員 5 名 事務局 3 名
- 4 議 事：答申書の内容について
- 5 資 料

---

会長挨拶            統合審議会も 7 回目となりました。今回はアンケート結果を基に答申書の内容について審議していきました。今日は最後の答申に向けてのまとめという事で、進めていきたいと思ひます。今回は南上地区の学校存続への熱い思いと、すでに統合をした地区の学校存続への熱い思いがありながら、それを乗り越えて統合した時の思い、そして南上小存続に対して現状の児童数がギリギリの人数ではないかという意見が出されました。こういう意見を踏まえて答申書をまとめていきたいと思ひます。夏目漱石が小説の中で、「智に働けば角が立つ、情に棹せば流される」という文言があったと思うのですが、情意面と理論面の両方の間に立つところで考えていけばいいのかなと思ひます。本日はよろしくお願ひします。

事務局            事前に配布しました資料には内容は目を通していただけたと思ひます。答申書の組み立てについてとなります。まず、南上小の現状について説明しなければならないと思ひます。まず 1 番目は、複式学級はあるものの、解消の見込みもあるという事、しかしまた発生する見込みがあるという事です。2 番目として、複式学級は継続するものの、児童数は現状のまま推移していくという事、そして移住者に好まれている地域でもあり人数が増える可能性もあるという事です。3 番目は、複式学級はあるが、町独自の臨時的任用職員を配置し、教科によっては授業を分けて行っているという事。4 番目は運動会を中心に学校と地域の連携が図れているという事が、南上小の現状となります。

現在町では移住政策を実施していて、急激な人口増加は考えられないが、少しずつ増加していく可能性は十分考えられます。

次に、課題について触れなければならないと思います。

- ① 複式学級のため、学級数が少ないので教員の数が十分でない。現在の人数が教育的効果を維持する最低限度である。つまり複式2学級の場合は困難であるという事。
- ② 教育効果を維持するための町独自の臨時的任用職員の配置も考えられるが、あくまでも臨時職員であるので、あまり好ましい状態ではないという事。町の財政状況によっては配置できなくなる可能性が十分にあるという事。

以上を課題としてあげさせていただきます。

3番目として、今後の南上小をどのように考えていくのかという時に、やはり児童の教育的効果を優先して考えていこうというところ です。

まとめとして、南上小はどうなるのかという事ですが、教育的効果を配慮するため、複式学級が2学級になると見込まれるときは統合に向け速やかに統合審議会を開催することです。この考え方ですが、複式2学級が見込まれたとき、改めて統合した方がいいのか、存続か審議するのではなく、統合に向けた審議会を開催するという風にした方が良くと思います。

南上小と地域の連携については他地域に誇れる財産だと思えます。ただ、福祉分野や土木などのインフラ整備も財政的な見地から厳しいものがあるのも事実です。それでもより良い学校にするために地域と学校が連携を図ってほしいというものです。ここに南上小版のコミュニティースクールを立ち上げることと書かせていただきました。

次に更に将来的な事になってしましますが、町全体の事に関しても言及しなければならないかなと思っています。

- ① すべての町立学校が小規模校です。専科教員の配置も十分ではありません。2020年からの英語教育の対応についても不安が残ります。
- ② 町の総合計画では2030年には町の人口が6,000人程度になってしまうことから、将来的には1小1中になる可能性があるが、時期はまだ未定です。
- ③ 専科教員の配置について、教員が小学校中学校のどちらの授業もできる小中一貫校も検討する時期になってきています。

④ 以上のことを含め、南伊豆町全体の教育の在り方について方向性を示す時期になっているのではないかと思います。

委員長 答申書の骨子について原案が出されました。これについて意見はありますか。

委員 現状として複式のデメリットが少ないという事は記載できないか。陸上大会での記録や学力は他の学校にも劣っていない。また音楽会での発表も素晴らしかった等、複式のデメリットが顕著に表れていないことを書く必要はないでしょうか。

事務局 感覚論では書きたくないと思います。音楽会の発表が素晴らしい等は3校の優劣は付けられないと思います。

会長 南上小の教育が充実しているということでしょうか。

委員 そうです。そういった意味合いで、教育が充実しているという事を入れていただきたいと思います。

委員 感覚論ではなく、一般的に見てもいい所だと思います。なれ合っていない、切磋琢磨している。小規模校にありがちな消極的である、磨きあい失われていくというデメリットは無いと思う。

会長 では、「充実している」を入れた方が良いでしょう。先に統合した学校は、教育的効果が劣っていて統合したわけではなく、充実していたがそれを乗り越えて統合したという経緯がありますが、どうでしょうか。

委員 どこの学校でも同じことが言えると思います。南上小のことで入れるとしたら、学校の努力、町、地域の協力があってデメリットが表れていない、現状を維持できているという事ではないでしょうか。

委員 アンケートの結果はこの答申書に反映されないのでしょうか。もし入れるとしたら、1番の所に「アンケートを取った結果は

こうだった」という記述を入れるべきではないでしょうか。

事務局 おっしゃる通りです。

会 長 では、アンケート結果を入れるという事で良いでしょうか。  
次に2南上小の課題についてご意見があったら出していただきたいと思います。

会 長 ご意見はないでしょうか。この部分は、南上小の教員体制の現状は綱渡り状態です。複式学級を分けて授業するという事は、教員免許を持った職員が、もう一人必要だということです。現状では教員免許を持っている臨時的任用職員を配置してもらって成り立っているわけですが、免許のない人が支援員として配置されても複式学級を二つに分けて授業することは出来ません。教員免許を持っている臨時職員の確保が毎年困難となっています。  
他はよろしいでしょうか。

委 員 ②の最後の行「今後、町独自の教員の配置が見込めない場合もある」は少しきつい言い方なので、表現を柔らかくしてほしいと思います。

会 長 では表現を変えて記載しましょう。  
3. 南上小の考え方についてはいかがでしょうか。

事務局 この統合審議会で何をやってきたかを言いたかった。南上小の児童のことを第一に考えたという事を伝えたくて記載しました。

会 長 4. まとめです。2点書かれていますが、いかがでしょうか。

委 員 南上小版のコミュニティースクールとはどういったものでしょうか。

事務局 これは南上小に限らず、南中小、東小、あるいは中学校もそうですが、見合う収入でしか支出が出来ない状況において、十分な教育的予算が取れない時にそれでも統合しないという選択を

した中においては、これは学校を守ったという考えは決して欲しくなくて、これを契機により良い学校にしていかなければならない時に、コミュニティースクールです。地域とPTAと教育委員会等が協力して頑張っていくというニュアンスで入れました。コミュニティースクールは、読めば読むほど難しいのですが、南上小は新聞でも取り上げられたように小麦づくりをしたりしていますが、どこの学校でもやっているのですが、その中でもより地域と密接しているのではないかと思います。教員が少ない部分を補ってくれたり、今以上に協力して頑張ってもらいたいという意味もこめて入れました。

委員 現在小麦の栽培を行っていて、他にも石釜を作ったりといろいろ計画している。今後も地域の人と計画的に行っていきたいと思っている。計画的に進めていく中で、複式2学級ですぐ統合という事になったら、計画も立てづらくなってしまわないか。「複式学級が2学級発生する見込みのときは、統合に向け速やかに統合審議会を開催し・・・」ではなく、「〇〇年度までは統合しない」という風には出来ないか。

事務局 3番で述べたとおり、児童の教育的効果を最優先したいということと、児童数の推移を見ていくと、途中で転校が発生すると、すぐに複式2学級となってしまいます。しかし、統合を宣言してから何年かおこなうてはならないので、複式2学級になったからすぐ統合という風にはなりません。

会長 複式2学級になったからすぐ統合というわけではありません。「統合に向け速やかに統合審議会を開催し、統合年度を明らかにする」となります。何をやりたいから、何を計画しているからという理由で統合の時期を決めるのなら、キリがないですよ。統合しないために次から次へと計画を立ててしまうことも考えられます。ですので、ここは無理のない表現だと思いますが。いかがでしょうか。

委員 事務局の説明だと次の統合審議会は統合するかしないかの審議ではなく、統合年度を決めて統合に向けた審議会をするという内容でしたが、仮に平成28年度に複式2学級になって

しまったら、すぐに審議会を開催するのですか。

事務局 すぐに審議会開催にはならないと思います。たしか統合を宣言してから3年はかかります。仮に統合を宣言しても複式対象の児童は卒業してしまいます。そうすると、今の人数だと複式1学級に戻ります。

委員 これから南上小に入学してくる児童の保護者は、例えば、南上小に入学するつもりで、学校の近くに家を借りてしまって、入学するときには学校がないという風になってしまう恐れがあるのではないですか。

事務局 コミュニティースクールで地域の人に広くお知らせすることができるのではないのでしょうか。未就学児童の保護者にも情報提供が出来ますよね。

会長 これからの未就学児の出生数を見ていけば、いつの時点で複式2学級になるか見込めますよね。それが明らかになった時点で統合審議会を開催して、統合年度を決めていけばいいのではないのでしょうか。①については表現をもう少し考えて文書化します。②についてはいいのでしょうか。  
では次に「5. 将来的に」についてどうでしょうか。

事務局 あくまでも提案です。提案について強い言い方をしています。

委員 小中一貫校について、南伊豆町は学校の位置的にはとても適していると思いますが、その場合小中学校の教員の交流も簡単にできるものですか。

委員 この小中一貫校はまだ始まったばかりなので、メリットはまだわかりません。ただ、小学校と中学校の位置が非常に近い場合。または同じ校舎に小学生と中学生がいる場合は、非常にメリットはあると思います。東小、東中の距離なら教員の交流も、子供たちの交流もスムーズに出来ると思います。南中小と南伊豆中の距離では少し難しいと思います。  
小中一貫校は始まったばかりで、研究してそのいいところを取

り入れて、課題をどう解消していくか検討してからではないと、安易に踏み込むのは危険だと思います。

委員 静浦が小中一貫校で始まりました。そこは小学校3校を統合するときに校舎を立て替えて小中一貫校にしました。土肥小中も来年度から小中一貫校になります。

委員 保護者の間では小学校の統合よりも中学校の統合の方が要望があつて、部活が成り立たないという状況になっているじゃないですか。一貫校にしてしまうと中学校の統合に支障が出てくるのではないですか。

事務局 部活の問題の他にも抱えている問題は多いです。ただ中学校の統合には相当な時間がかかると思っています。  
来年度南伊豆町の在り方について考えていかなければならないと思つているのですが、その中で部活の合同チームも検討する余地があるのではないかと思つています。曜日で合同練習をする等できればそれが今できる最善の策なのではと思つています。

会長 南伊豆町は学区が広いです。これを中学校1校にした場合に教育カリキュラムがとても難しくなると思つています。登下校時間の問題、非常時の子供の安全の事等、クリアしなければならない問題が多いです。中学校の統合については非常にもめると思つています。子供の人数的には1校にして部活の問題も解消されると思つています、その他の部分では問題が多いですね。

委員 ③と④をうまくミックスした形で表現できないか。

委員 東小と東中、南中小と南伊豆中等の具体的な名称は出さない方がいいのでは。  
小中一貫校については考えていかなければならないという事、他と学校の統合も人口の推移を見ていくとやっていかななくてはならないという事、町全体の教育の在り方という大きい視点で今後考えていく必要があるという事は書くべきだと思う。

委員 ①～④に分けないで、全体的にまとめた文章にした方がいいと

思います。文章の中で教員の問題や小中一貫校のこと、これからの南伊豆町の教育の在り方についてまとめていけばいいのではないのでしょうか。

事務局 今回の内容で大きな相違点が無ければ、次回の審議会までに文書化して事前配布しますので、検討してきていただきたいと思います。

委員 教育として南伊豆町のことを考えていく側面と、南伊豆町を発展させていくためにどうしたらいいかという議論が盛んになされているわけですが、そちらとの関連が非常に強い気がします。教育だけで考えないでもっと大きな視点で考えた中で教育はどうだろうという考えの方がいいのではないかと思います。

事務局 その意見も踏まえて文書化します。

会長 次回は答申の内容をまとめるという事で、次回が最後の審議会になると思います。  
以上で本日の審議会を終了します。